

令和元年度 第1回 麻績村総合教育会議 議事録

1. 日時 令和元年 12月 26日(木) 午前9時00分から午前9時47分

2. 場所 麻績村地域交流センター第3・4研修室

3. 出席者

(構成員)	麻績村長	高野 忠房
	教育委員会	
	教育長	飯森 力
	教育長職務代理者	市川 祥介
	委員	塚原 明水
	委員	宮下 温子
	委員	小山 正文

(構成員以外の出席者)

事務局職員 1名

傍聴者 1名

4. 会議内容

(会議開会 午前9時00分)

1 開会

○飯森教育長

定刻となりました。これより令和元年度第1回麻績村総合教育会議を始めさせていただきます。始めに、村長よりあいさつをいただきたいと思っております。

2 あいさつ

○高野村長

あらためましておはようございます。年度末の何かとご多用なところお集まりいただきありがとうございます。いよいよ本年度迫っている訳であります。来年度からは筑北中学校が麻績村単独でやっていくということになります。そうなりますと小学校、中学校を麻績村でということですのでより連携を持った形で進めていかないといけないと思っております。昨日の信濃毎日新聞社の一面に載っていた記事を見て私はショッキングな記事であるなど改めて感じました。2019年の出生数が最小の86万4千人ということのようです。この数字が社人研の予測したままの数字であればいいんですが、国の社人研の方で予測している減り方よりもさらに早いスピードで減

っているようです。これは大変なことだなと思っております。自然減で 51 万 2 千人が減っているようですが、全国 47 都道府県の内の一番人口が少ない鳥取県が 50 数万人だったと思いますが、ここに近い人口がいなくなるということですから日本としても大変なことでは無いかと思っております。これからの将来の人口がどうなっていくのか専門に研究して予測している社人研という所がありますが、その予測を見ますと既に麻績村も予測されていて 20 年後の平成で申し上げますと 52 年の予測が 1,774 人ということでした。こんなことになっていっては村も困るということで、村としては 1,918 人という設定をしております。そこまで減らさないために色々な対策を講じてやっている訳です。麻績村についてはいずれにしても若い人たちが少なくなっているということで、若い人たちを一人でも増やしていかないといけないという政策を始めた訳ですが、これが約 10 年前から始めた訳ではありますがその効果がようやく今表れ始めている訳です。すなわちこういった政策は非常に長い期間が必要でして大体 10 年ぐらいかかるということです。今後さらに 10 年先ということになると今対策を講じていかなければもうダメになってくるということで色々なことをやっている訳であります。麻績村の減り方はどうかと言いますと、社人研の予測している数字よりは減っていません。概ね村が予測してこの目標でいこうという筋に概ね近い数字で動いております。麻績村については色々な政策を講じていますので何とか維持できている訳ですが、手をこまねいていけば大変な状況になってくると思います。この子どもの出生率ですが麻績村も放っておけば 1 以下ということになってしまいます。今どういう状況かと言いますと、よく言われますのは 2 以上になると人口が減らないと言われますが 2020 年については 1.46 という想定で計画をしていた訳ですが現在ほぼこの数値に近い 1.43 ということになっております。0.03 少ない訳ではありますが概ねこういった状況になっております。これは過去 3 年間の平均で動いていくという数字であります。現在 1.43 という事でありまして来年は 1.46 という想定であります。ほぼそれに近い数字で動いているという事でありまして。将来的には先ほどの 20 年後には 1.6 ぐらいに持っていければと思っております。現在若者定住施策等進めている訳であります。特に住宅棟は本町地区を中心に進めてきた訳であります。さらにこれからは小東地区で今年から始めるということで既に業者も決定してよいよ工事が進んでいくということになっております。そうなりますと定住から永住という形の人を迎えていきたいという事でありまして。永住ということになりますと若い人たちが何を希望しているかと言いますと、当然働く場とかも必要であります。一番関心があるのは子育て教育、特に教育であります。『こんな田舎で立派な教育が出来るのかしら』、『子育てもしっかり出来るのかしら』という心配をされる方が非常に多いです。ところが麻績に移られた若い人たちの話を聞くと『麻績村って意外と子育て環境が良いね』ということで「意外と」という言葉で思ったよりいいねということと、従来麻績村にいらっしゃる方は子どもの数が少なくて教育が心配だという声がある訳ですが、他所から来た方については先日お話を聞いた方からは『本当に子どもを一人一人しっかり見ていただいてありがたい』という話を聞きました。これは小規模、少人数というメリットを生かした教育を進めていただいております。ということではないかという点で、教育委員会の先生方に感謝を申し上げます。おそらくこれからも地域の格差と言いましょうか、それが教育や子育てに出てきてしまう時代だと思っております。これはどうカ

バーしていかないといけないと言えば、地域特性を生かして地域の住民と一体となって行政がいかにそういった所を手厚くしていくかということと、あわせて行政だけではだめですから当然負担を含めて保護者の皆さんと共に育っていくという環境を作っていないといけないのではないかと考えております。あわせて一時的なものはだめでして持続可能な形が必要ではないかと考えております。一時的にアクションを起こしただけではだめでして継続していかなければいけないと考えております。こうした記事にあるように子どもが少なくなっていく、こういった中で子どもを増やしていくということが地域の活性化に繋がっていくことになる訳ですが、その為には今日お集まりいただいた先生方の任務と言いますか、大変期待されている部分がありますのでどうぞこれからもよろしくお願ひしたいと思います。それと学校問題の中で麻績村と筑北村の統合についての色々ご意見があります。ご意見がある中で例えば先日の議会等でも一緒にやっていくべきだということは充分分かる訳ですが、今の段階においては筑北村さんにおいては小学校が統合して給食棟も建設して、いよいよ具体的なスタートの日程も決まって中身についての検討をされているという話を聞きますし、中学についても色々な細かい所まで動いているということの中で、今の段階でそれを論じるのは如何なものかなと考えております。筑北村の村長とは将来に向けたことは年が明けたら話していきましようということになっておりますが、これは非公式の形でいろいろなことを話していきたいと考えております。私の思いとしましては今こうして動き始めたからには我々の思いとは違ったとしても今の形を地につける、いわゆる立派な教育を進めるということが第一優先ではないかと考えております。今まずしっかりとした教育を始める、始めた中で新たな課題とか問題が出てきますのでそういったものを含めて将来どうするかということにすべきではないかと考えております。早く保護者の皆さん、ご家庭に皆さんに安心していただけるような内容をお知らせしていくことが必要と考えております。いずれにしましても来年度からは保育園、小学校、中学校すべて関連付けた形で進めて欲しいなというお願ひを申し上げまして開会にあたりましての挨拶とさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

○飯森教育長

ありがとうございます。それでは引き続き会議事項に入っていきたいと思いますが、ここからの進行は村長となりますのでお願ひいたします。

3 会議事項

(1) 麻績村教育大綱について

○高野村長

それでは、今日の次第に沿って進めさせていただきます。麻績村教育大綱（案）について事務局より説明をお願いします。

○飯森教育長

よろしくお願ひいたします。麻績村の教育大綱についてですが、ご存じの通り教育大綱につきましては首長が教育委員会の意見を聞きながら定めるということになって

おります。そういう中で麻績村教育大綱は平成 28 年 3 月に制定されております。現在までに 2 回ほど改訂を行っておりますが大きな修正は無く現在に至っているところであります。また、中学校の教育の部分につきましては同年の平成 28 年の時に麻績村筑北村学校組合の教育大綱を制定しております。そしてそれに対して進めてきた訳でございますが平成 29 年 3 月に筑北村の組合を脱退する方針が示されたことによりまして学校組合教育大綱の期限を平成 31 年度までにしたという改訂を行ってきております。本日の総合教育会議の内容につきましては令和 2 年 4 月より筑北中学校が村立になるということ踏まえまして、中学校教育について麻績村教育大綱に反映させていきたいと考えておりますのでよろしくお願ひいたします。それではこれより麻績村教育大綱の改定の部分、案をご説明申し上げて参りますが、教育委員の皆様には事前に内容等の資料をお配りし、校正内容等について見ていただいて修正もいただいております。それを反映させていただいておりますのでこれから修正を加えました案について一括で朗読を申し上げる中で、その後細かい部分について皆さんから意見をいただひて意見交換をしていきたいと考えておりますのでよろしくお願ひいたします。それでは次長の方から説明を申し上げます。

○臼井教育次長

それでは私の方から一括朗読をさせていただきます。よろしくお願ひいたします(資料に沿って説明)。

○高野村長

ただ今朗読をしていただきましたが、既に先生方には事前に送られたということの内容をご検討いただひているかと思いますがご意見ご質問等いただひたいと思います。このまま(2)の意見交換に移りたいと思います。

(2) 意見交換

○飯森教育長

私の方から少し補足をさせていただきます。まず表紙でございますが、本日 12 月に改定ということで日付は『令和元年 12 月』にしたいと思いますが、中身の中学校教育などについては 4 月からということですが麻績村としては中学生は全部同じでございますので、この時期から改定をしても良いのではないかとということで進めて参りましたのでそこら辺も含めてご意見を頂戴できればと思います。

○高野村長

大綱の期間ですが、今は平成と令和の使い方は統一しなくて良いのでしょうか。

○飯森教育長

迷ってはいたんですが平成 30 年度から令和 4 年度で良いのか心配だったんですが、終わるまでは使っても良いという事だったんですが皆さんのご意見をお聞きしたいと思ひます。

○小山委員

改訂が令和という形になっているので期間についても令和の方が良いと思います。

○高野村長

とりあえず今日の段階では平成 30 年度から令和 4 年度ということにしておいて、今年から総務課の方でも統一しましょう、()で西暦を入れるか入れないかという話もあるので、もしそういう事になると西暦を入れるという事にもなるのでとりあえず今日は平成 30 年度から令和 4 年度までの 5 年間という形にしておいて、後で村として西暦入れるか入れないかという所については統一をさせていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。他に何かございますでしょうか。なお、これについては今回決めたから動かすことは出来ないということではなくて随時見直しはしていく訳でありますし、おそらく 4 月に入って完全に麻績村が中学の関係ですべてやっていくということになれば今後こういう風にした方が良くはないかという意見があればその段階で必要があれば見直すという形になるかと思えます。

○飯森教育長

これがある程度皆さんにお認めいただきますと学校の方ではこれを基にグランドデザインがある程度出来ていくという形になりますので、村の方針はしっかりしておかなければならないと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○高野村長

教育長に質問ですが、教育面は多様化していると思いますが『教育関係の高度化』という言葉は使わないでしょうか。

○飯森教育長

あまり使わないです。

○高野村長

福祉などの住民サービスで多様化とあわせて高度化していくことにどう対応していくかということがありますが、教育面ではまだ多様化ということですね。これは村と中学のものを一本化するかという内容でよろしいでしょうか。

○飯森教育長

そういうことになります。

○高野村長

塚原委員どうでしょうか。

○塚原委員

私が気になっているのは連携支援員という立場を貰っているので、1 枚目の学校教

育の充実の所で『保小中一貫教育』ということをごどのように受け止めるかという所で、私は『保』より就学前から麻績村は一貫教育と言ってやってしまった方が良いと思います。保育園というところどうしても厚労省が入ってきてしまいますので、文科省的には『小中』という考え方しかないので私の理想としては就学前も含めた一貫教育というスタンスの方が麻績村は良いのではと思います。そうすると言葉が『就学前保小中一貫教育』となってしまいますので、『保』と入っている意味合いを大事に考えていきたいです。私も立場上就学前も含めた一貫教育の方が良いかと思っています。

○高野村長

小山委員どうでしょうか。

○小山委員

全般的によく流れていると思いますので大丈夫かと思っています。

○高野村長

市川職務代理いかがでしょうか。

○市川職務代理

今私たちがやるべきことは村長の挨拶にありました通り、これを具体的にどうしていくかというところがポイントになるかなと思います。むしろ今の課題を洗い出してそれを早急に解決していかないといけないので考えているところであります。

○高野村長

基本的な考えと言いますか大綱については概ねこんな方向でということによろしいでしょうか。

○市川職務代理

いずれ大々的に改定するときは全体のバランス、文章の端的に言っている部分と詳しく長々と言っている部分がありますので大々的に変えるときに全体のバランスを見て作り直すことが必要かなと思います。

○高野村長

教育長と話をした時に教育大綱のこの会議を12月にやっていく理由は、いよいよ4月から新しい方針でいかなければいけないということで今出すことによって新年度からの学校関係の考え方とか予算とかいろいろ関わるのでこのタイミングになったということでご理解いただきたいと思います。また新年度になって必要であれば見直していくということでよろしく願いいたします。宮下委員いかがでしょうか。

○宮下委員

4月から新体制ということで目前にして今日大綱を読ませていただいてすごく分かりやすい表現で、いろんなお話が中で飛び交っているかと思いますが体制がはっきり

見えてくる内容で良いと思います。

○高野村長

塚原委員から文章について未熟な点もあるよという話でしたが、分かりやすい部分もあるよということでありがとうございます。それでは概ねこのような方向でよろしいでしょうか。

○全員

(了承)

○高野村長

教育長の方で付け加え等ありますか。

○飯森教育長

特にありません。

○高野村長

今後はこれで公表していくということでよろしいですか。

○飯森教育長

そういうことになります。

○高野村長

年度の表現だけ確認をお願いいたします。

○飯森教育長

総務課と調整をさせていただきます。

○高野村長

それでは次に進みます。

5 その他

○高野村長

今後の予定等何かあればお願いいたします。

○飯森教育長

今後の予定等は先ほど村長がおっしゃられた通り4月から動く中で何かあればしっかり見直しをしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○高野村長

委員の皆さんから何かあればお願いいたします。

○塚原委員

小中一貫教育の関係で施設分離型の所を視察に行き、信濃町の場合は一体型の学校でしたので施設分離型の学校も視察してどんな問題があるのか教えてもらいたいのかなと思います。私も小学校行ったり中学校に行ったりしていますが、これでいいのかなと思ったりこのままいけば問題は無いと思いますが心配もあるので分離型の所を皆で見に行き勉強してあげればいいのかと思います。

○高野村長

やる、やらないを含めて検討させてください。

○市川職務代理

今、保小中で非常によくやってくれているので小中一貫等については割合スムーズに進んでいるのかなと思います。苦労しながらまさに歩きながら考えるということになりながら検証し新たなということに進んでいて非常にありがたいと思います。気になるのは5人だけのクラスです。ここにも書かれているように小規模校の良さ、小規模学級の良さを生かしていると感じていますが、危惧しているのは今は低学年で問題無いんですが4人の女の子と1人の男の子ということで子どもたちの発達段階によって男の子は男の子としての発達があり、女の子は女の子としての発達がありますので高学年、中学生になった時にどうなるかまで見越して、これからの小中一貫を考えると5人の学級を大事に考えていきたいということを今度部会でもお願いしたいと思っています。県下各地かなりの学校がありますし学級数にすると200を超える学級が5人以下であります。これは新年度の計算です。学校によっては1年生から6年生まで5人以下という学校がありますので、そういった所の実践事例から学んでいく必要があると感じておりますのでよろしくお願いいたします。二点目ですが、中学校の教育委員会が無くなって一本化されます。そこでぜひ教育委員会の内部組織をしっかり根本から見直していただいて無駄な組織がないかどうか、これだけ厳しい情勢でありますので統合できるものが無いのか、被っているものは無いのか、本当に一貫教育を進めていくということになるとどういう組織にどういう権限を与えて、どう動いていくのが一番効率的で地域全体に分かりやすくなるのか、この辺りは教育委員会を超えた世界でありますので村長の方でも充分ご検討いただいて望ましい組織づくりでスタートしていただければと思います。

○高野村長

私の方から申し上げられることを申し上げます。少人数の学年の取り扱いについてですが、私は教育方面については素人ですが内容によって上の学年と一緒にやるとかあるいは下の学年とやるということは授業として難しいのでしょうか。

○市川職務代理

それは当然大事なことで今もやってくれています。しかし縦割りが良いということ

で学級という集団を持たない学校を作ろうという動きが佐久の方であります。それも大事なことなんですけど今はもう一つ学級集団を高めることによって子どもが自ら高まっていくという世界もあります。縦割りを強調しすぎてしまって、せっかくある学級集団が集団として成り立たなくなってしまうと問題です。最初から学級集団が無ければいいんですが、縦割りと学級集団を育てるということはどう両立していくか相互にどうやって進めていくかという辺りも含めて先生方に大事に研究していただいたいという思いですがおかしいでしょうか。

○高野村長

心配するのは今は 10 人以上というクラスで落ち着いていますが、このままいけばある時に 8 人というクラスが出てきます。その所ももう少し入ってもらって少なくとも 15 人くらいになってもらいたいと思っています。今 5 人のクラスがこれで 3 年生になるかと思いますが、思春期を迎えるまでに増えて欲しいとは思っております。

○市川職務代理

いずれにしても 5 人とは限りませんが 5、6 人の学級は出てくるということも想定して、そうなっても慌てないという体制を作っていきたいという思いでございます。

○高野村長

村の中のことを考えても出来れば 15 人くらいは確保していかないとと思っております。教育委員会の措置の見直しという点については塚原委員からも意見が出ましたが、厚労省関係と文科省関係の末端が村に来ていますのでいろいろ含めて教育長の方でも検討していただいていると思っておりますが、これからもやっていきたいと思っております。その他にありますか。

○塚原委員

村の組織についてですが、今 P T A の方で多少一本化していったほうが良いのではないかと動きが出てきています。もう一つは私が両方コーディネーターをしているコミュニティスクールが小学校と中学校にあります。もちろんそれぞれに運営委員会があります。すぐでなくていいですが 2、3 年後には一本化していかないと両方で運営委員会をして目指している方向は同じ麻績村の大綱に則るものなので、中学の校長先生に一本化出来ないかという話をしたら今は無理ですという話でした。小学校にはまだ聞いていませんが出来たらコミュニティスクールも一本化していく方向で考えていただけたらと思います。

○市川職務代理

まったく賛成ですが、コミュニティスクールの一番の責任は学校の方でお願いしているものでありますので私も今度の部会をお願いをするつもりですがここで村長までかからなくても学校段階ですぐ出来ることです。そして中学で今は無理だと話をしているのはまだ坂井地区の子を預かっている段階でその話は出来ない、出来るのは 4 月以降ということで、これは塚原委員のおっしゃる通りすぐ一本化できると思います。

ゆくゆくというよりは5月か6月の第一回部会で決定すれば来年度中には出来るかと思えます。

○飯森教育長

コミュニティスクールについてですが、学校に対して一つずつということですが麻績村が進めているのは一貫教育ですので一本化していくこと自体はまったく支障は無いと考えています。ただし中学はまだ組合立ですのでそこが上手くいかないという事があります。

○高野村長

どうしても必要であれば部会の方で分けていただくということですのでよろしくお願いいたします。他に何かございますか。

(なし)

○高野村長

ぜひこれから麻績独自ということになりますので小規模というメリットを最大限生かしてやることを考えていただきたいと思えますし、まだ村民の皆さんが不安になっています。以前に議会の方で小規模校へ視察に行って話を聞いたら小規模校と大きな学校では小規模の方が子どものためには絶対に良いですよという話を聞いてきたそうです。議会の中でも分かっている方もいます。当然弊害というかデメリットもありますがどちらかというと小規模校のメリットをどう生かすかということがこれからの時代だということをおっしゃっている方もいますので、一番は村民がその辺りまで分からないと困るので特に保護者に心配することは無い、子どもを立派に育てていきますということをはっきり出していただければ嬉しいなと思えます。子どもたちは我々受ける側にも大きな責任がありますのでよろしくお願いいたします。それでは閉会に移ります。

6 閉会

○飯森教育長

長時間にわたりご協議いただきましてありがとうございました。これから村の教育委員会等でしっかり根本的なことを考える中で村の方へ提言したり、要綱の部分を改訂したりしていきたいと思えますのでよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。以上で、麻績村総合教育会議を閉じさせていただきます。

(会議閉会 午前9時47分)